

12月8日(水)には、あまっ子ステップアップ調査があり、武庫庄小学校でも全児童が受けます。コロナ禍においても、学校やご家庭で学習した日頃の成果が出て、子どもたちの自信に繋がればいいと考えております。学校でも、いつも学習の単元が終わるごとにテストを行っており、おうちの方々からも励ましのお言葉をいただいております。学校からは、テストを返却し、満点でなければ直しをさせ、できているか確認しておうちに持ち帰らせています。ただ、内容によっては、再テストを行う場合もあります。「先生、これ同じ問題だからできるに決まっている！」と余裕の発言をする子もおり、数値を変えて出す場合もありますが、答えが全く同じになるとしても全員が満点を取ることはなかなか難しいです。そして、2回目、3回目でやっと、「あーそういうことか！」「できるようになった！」と喜びの声を聞くことができる場合もあります。「解き直し」をするということも大切です。

アメリカ、バドュー大学のカーピック博士がワシントン大学の学生を対象に、スワヒリ語を40単語、繰り返しテストをしながら覚えてもらうという実験を行いました。学生は4つのグループに分けられ、全ての単語を覚えるまで以下の学習を繰り返しました。

	全ての問題を再テスト	間違えた問題のみ再テスト
全ての問題を再学習	A	C
間違えた問題のみ再学習	B	D

いずれのグループも4~5回繰り返しせば全て覚えることができたようです。かかった時間はAグループを100とすると、B、Cグループは75、Dグループは50程度だったそうです。

ところが、4つのグループに1週間後に抜き打ちテストを行った所、以下の結果となりました。

	全ての問題を再テスト	間違えた問題のみ再テスト
全ての問題を再学習	A : 80%	C : 35%
間違えた問題のみ再学習	B : 80%	D : 35%

<参考> t.torii「記憶の定着はアウトプットで決まる！カーピック博士の記憶に関する実験」

https://learningbox.online/2020/11/09/blog_memory-output/

学びの広場11月号でも読書の後のアウトプットについて触れていますが、記憶の定着を図るためにもアウトプットが大切であることがわかります。間違えた問題について、再学習し正しい答えを知ったり、定着していなかった知識を獲得することももちろん重要ですが、「できていない問題を覚え直す」+「忘れた頃にテストを行い、記憶を定着させる」のが効率的であるようです。学校でも、形を変えながら反復練習させ、武庫庄っ子の学力が定着するような取り組みを行っていきたいと考えています。